



橋 戸

令和4年1月31日
学校だより 第10号
練馬区立橋戸小学校
校長 青木 俊哉

「道徳」について考えるきっかけに…。

校長 青木 俊哉

“道徳が変わります”…ということが話題になり、数年がたちます。「道徳の教科化」「特別な教科『道徳』、検定教科書の作成と配布、評価の開始など、一時はテレビや新聞にも大きく取り上げられ、報道されたこともありました。毎週1時間ずつ行う道徳の授業、子供たちの学習は、いったいどのように進んでいるのか、気になる方も多いと思います。

さて、保護者の皆様は、ご自身の子供時代の道徳の時間、覚えていらっしゃるでしょうか？「何かテレビを見たことは覚えているのですが…」というような記憶の方が多いかもかもしれません。例えば、NHK教育テレビ(Eテレ)の「ぎわぎわ森のがんこちゃん」は道徳の長寿番組として有名ですが、他にも「さわやか3組」など、番組を見た記憶が強く残っているでしょう。また、世代によっても道徳の記憶には違いがあるように思います。何を隠そう私は…小学校時代の道徳の記憶が全くありません。小学校時代など随分と昔のことになりますが、それでも国・社・算・理・体・音・図・家…教科のことは多少なりとも覚えています。学校行事やクラブ・委員会活動、放課後友達と遊んだことも思い出しますが、道徳だけはさっぱり思い出せません。当時の担任の先生が、道徳の授業をしなかったということはないと思うのですが…。

時代が流れる中、学習指導要領も何度か改訂され、社会の風潮や子供たちを取り巻く環境、家庭や学校のあり方、学びのスタイルなど、様々な変化が見られます。その中で、一人一人の心のもち様や規範意識、自分自身や家族、社会についての捉え方も、変わりつつあると言えます。感性、個性、多様性…といったキーワードが飛び交う中、心を育む土台となる道徳の時間、道徳の学びの姿も、変わってきていることを実感します。

今、子供たちは、毎週1時間ずつ行われる各学級での道徳の時間に、教材の読み取りや友達との意見交換、ノートやワークシートへの記述を通して、自分の考えを深めていきます。“読み取る道徳”から“考え、議論する道徳”へと転換が図られ、道徳の時間の学びは、日々の生活や人間関係にもつながり、様々な教育活動を通して具体的な実践に生かされます。学んだことが現実に事例となって目の前に現れ、自分達の課題となることもあります。他の教科の学習のように、覚えたことを生かしその場で答えを導けたり、学んだことがすぐに役立ったりするとは限りません。むしろ、しばらくたって…ということの方が多いかもかもしれません。とはいえ、仮に結果に直結はしなくても、週1時間の学びを蓄積していくことの意義は、大きいものと考えています。

このような道徳の学習を、地域・保護者の皆様に知っていただき、一体となって子供たちの豊かな心を育むことを願い、東京都では「道徳授業地区公開講座」を平成10年より実施しています。本校でも、毎年1回設定し、全学級の道徳の授業を公開するとともに、意見交換会や講演会、パラスポーツの体験など、様々な機会を用意して、考える場としてきました。今年度は、感染状況もあり、当初予定していた6月の実施が叶わず、2月の土曜公開に延期し準備を進めておりましたが、感染者の急増に伴うまん延防止等重点措置の発令を受け、中止と致します。貴重な機会を失ってしまい残念ではありますが、土曜授業の時間割の中に道徳の授業を1時間組み、公開予定だった道徳の授業を実施しますので、お子様の帰宅後、どんな授業だったかなど話題にされ、考えるきっかけとしていただくと幸いです。